

長野県図書館協会

デジタル版 小中学校図書館部会だより

第133号（24年度）

第62回 長野県図書館大会を終えて

飯水支部代表 木島小学校 原田 淑子

第62回長野県図書館大会（平成24年10月20日）について、開催地・飯山市よりご案内申しあげましたところ、県内各地より多くの皆様に御参加いただき誠にありがとうございました。遠路、北信濃においでいただき、飯山市民会館と飯山市立城北中学校を会場に、「自らの学びから創造と連携につながる図書館の可能性を探ろう！」を大会テーマに、熱心に情報交換、協議し合う中で研修を深めていただきましたことに感謝申しあげます。

開会式では、主催者を代表して、市川武二教育次長様から、現在の公共図書館・学校図書館の重要な役割に触れていただき、その上で、「図書館の持つ可能性」を考えながら、「充実した図書館サービスの提供と子どもたちに、自ら考え、健やかに生き抜く力と勇気を与えられるよう願います。」という励ましのご挨拶をいただきました。また、本大会長牛山協会長様からは、日頃の読書活動の成果と今後の図書館サービスにおける課題と、この大会の意義についてお話をいただきました。続いて、宮下県図書館協会事務局長より、「長野県における図書館の現状と今後の方向についての指針」について説明報告がありました。

基調講演では、元NHKアナウンサーの山根基世氏から「もう一度考えたい ことばの力」と題してご講演いただきました。参加者からは、「言葉の大切さを改めて深く意識させていただくことができました。」「図書館の果たす役割の大切さを認識しました。」「零石さんのお話が心に残りました。」等々の感想をたくさんお寄せいただくことができました。

午後は、13の分科会に分かれて、レポート発表・研究協議・ワークショップ・情報交換等が行われました。小中学校部会には、6つの分科会を担当していただきました。どの分科会からも熱心な取り組みについて発表され、和やかさの中にも真剣さ伝わる充実した情報交換がされておりました。参加者からは、「日頃の実践につながる有意義な情報交換となりました。」「司書の先生と司書教諭の先生の連携が図られるようになった。」という感想をお聞かせいただくことができました。



今大会も、運営する側も参加する側も気楽に参加して話し合うことができ、実のある大会にしたいという願いを引き継いだ形で開催させていただきました。今後も、改善の方向を探りつつ充実した大会になりますようお願いしています。

最後となりましたが、運営面・施設面で多大なご支援をいただきました飯山市・飯山市教育委員会様、大会実行委員会ははじめ、関係諸団体の皆様、並びに県下各地からお集まりいただき大会を盛り上げていただきました参加者の皆様に心より感謝申しあげ、報告とさせていただきます。



第 62 回長野県図書館大会

第 12 分科会「子どもたちに読書の楽しさを伝えるために」に参加して 読書の「楽しさ」を伝えていきたい

栄村立栄中学校 柴 枝里

「…図書館大会ってどんなことをするんだろう？」そんな思いを持ちながら、初めて参加しました。私が参加した 12 分科会では人形劇や朗読劇を目の前で見ることができ、子どもにかえたような気持ちになりました。12 分科会のテーマは「子どもたちに読書の楽しさを伝えるために」でしたが、思わずこちらの方が楽しんでしまったように思えます。考えてみると、子どもたちに読書の楽しさを伝えるには、やはり、私たち伝える側もその「楽しさ」を知っていなければいけないのでは、と思います。声から世界が想像できる朗読劇。活字だったものに、音や人形が加わることで一つの世界ができあがる人形劇。県内にもそんな「楽しさ」を感じさせてくれる方々がたくさんいるのだと初めて知りました。子どもたちの世界を広げるためにも、そんな方々と子どもたちが出会う機会をつくれたら、と思います。少しでも子どもたちに読書の「楽しさ」を感じてもらえるよう、一層工夫をしてみたい、そう思えた分科会でした。

第38回全国学校図書館研究大会（米子大会）報告

第38回全国学校図書館研究大会（米子大会）に参加して

長野市立豊栄小学校 鈴木 明

8月8日～10日、「学びを広げる ひとをはぐくむ 学校図書館 ～ことばの力を培い、豊かな出会いを創る～」をテーマとした全国大会に参加させていただきました。

シンポジウムで「新学習指導要領と学校図書館」が討議されたように、新たな図書館活動をさぐるようとする参加者が多かったのではないかと思います。

私の勤務校が小規模校のため、分科会は「僻地、小規模校の学校図書館の運営」に参加しました。鳥取県琴浦町立古布庄小学校（全校児童42名）の岩間先生の発表からは、読書や図書館利用の実態をつかみ、読みたい・読ませたい本の購入、図書館整備、教職員との授業連携などの実践を知ることができました。一人一人に声をかけることができる長所を生かしていました。

文科省からは、新学習指導要領で読書指導が指導事項になったこと、財政措置を厚くしたこと等の報告があり、他の発表者からは、学校図書館における管理職のリーダーシップと全職員の共通理解と協働の大切さ、課題設定をした教科学習での調べ学習における図書館活用の意義などをあらためて教えていただように思います。

講演では、工藤直子氏、村尾靖子氏に自作について語っていただいたり、松本猛氏には「絵本の絵の読み方」、こうやまのりお氏には「黄金の十代の夢を職業にする幸せ」の演題でお話しをお聴きしました。

会場は、米子駅前の米子コンベンションセンター及び米子市文化ホールで、大ホールも分科会が行われた小会議室等もすばらしい施設でした。鳥取全県の関係者の協力があったの大会運営であることを感じました。第39回は、2年後の甲府大会です。

地区学校図書館研究会から

中信地区

11月13日 豊科北小学校 豊科北中学校

中信地区図書館教育研究会に参加して

豊科東小学校 中嶋 愛生

豊科北小学校3年生「本で調べて報告しよう」では、事典や辞書を使い、昔の道具を調べ報告書に書こうという授業を参観しました。

自分の調べる道具を決め、使い方の予想をたてた子ども達が道具の使い方を調べる場面では、少々悪戦苦闘しながらも答えに近づいている子ども達の姿が見られました。

また、司書の先生によって、あらかじめ必要な資料がワゴンにまとめて提示されていたり、市内の小中学校から百科事典を借り、各グループに1セットずつ用意されていたりと、資料が実に充実していました。

研究会では、インターネットではなく、本で調べるからこそその良い姿・身につく力についての意見が多く出ました。友達を助ける・協力する・考える事は図書館での調べ学習ならではの特徴です。担任の先生と司書との繋がりが出来れば図書館での調べ学習はとても充実した物になることを今回学びました。簡単に調べることができる今の情報社会ですが、子ども達には本で学ぶ良さを知ってもらえるよう、担任と司書との繋がりをもっと作っていきたいと感じた分科会でした。

南信地区

11月16日 赤穂南幼稚園 赤穂南小学校 赤穂中学校

南信地区大会に参加して

駒ヶ根市立中沢小学校 橋爪 洋幸

赤穂南小学校の4年生の国語の授業を参観しました。「友とかかわり合いながら、本との出会いを広げる読書指導のあり方」という研究テーマで、「ごんぎつね」を読み深め、さらに自分の本（気に入った物語）の世界を広げようという学習でした。授業の中心となったのが、グループ毎の「読書会」で、グループの子ども達一人ひとりが自分の選んだ本で心に残った場面を紹介し、それに対して他の子ども達が付箋にコメントを書いて読書紹介カードに貼り付けていくというものでした。

従来の読書紹介は、その本を読んだ子が、あらすじや感想を発表し、聞き手に選んだ本のよさを伝えるという一方通行的なものでしたが、この授業では、グループの子ども達が選んだ本をグループの子ども達全てで読み合い、共有し合った上で、発表したり、コメントし合ったりするという双方向的なものになっているということが、画期的で大変参考になりました。午後の分科会での実践発表でも「読書会」が取り上げられ、今後の読書指導の中核となりうる活動であることを実感しました。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第133号
発行日 平成24年12月11日
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内
長野県図書館協会 小中学校図書館部会（代表 関間昇）